

持続可能な社会の礎を築く

磯部 雅彦

土木学会第102代会長



2011年の東日本大震災は改めて社会安全を大きな問題として提起しました。社会が抱えるさまざまな自然災害や事故に対して、リスクを適切に管理しながら、人的被害を限りなく抑え、生活や産業の継続性を確保していかなければなりません。また、高齢化社会を乗り切るためにも、高齢者や女性を含む人びとが社会のために快適に働くことができ

る環境を築くことが肝要です。エネルギー資源の枯渇を回避するための、省エネルギー、再生可能エネルギーの開発、従来型エネルギーの適切な使用も今後の社会に欠かせません。さらに、社会基盤施設の維持・管理、地球温暖化問題への緩和策と適応策、長期的な土地利用計画、国際社会での協調・貢献など、土木界が果たさなければならぬ責務は数えきれ

ません。それにもかかわらず、土木界に対する社会の見方には、相変わらず否定的なものがあるのも事実です。土木学会は、直面する一つひとつの問題に対して学会としての責務を果たしていくとともに、土木界に対する誤解を払拭するために努力を続けなければなりません。そのために土木が目指すべき遠くを見つめた目標を、持続可

能な社会の礎を築くことに据えたいと思います。これを私たちが進むべき道を示す不動の北極星のようなものとし、土木界の一つひとつの活動が、己を利するためのものではなく、一時しのぎのもでもなく、目指すべき理想に向かうものであることを示していきたいと思えます。どうぞ皆様のご協力とご批判をよろしくお願いたします。